

## *Forrest Gump* に見られるアメリカ南部方言： *Tobacco Road* のものと比較して

福島一人

### **The American Southern Dialect in *Forrest Gump* : Compared to that in *Tobacco Road***

**Kazundo Fukushima**

#### Abstract

The purpose of this paper is to confirm the grammatical features of the American Southern dialect in the speech of Forrest, the storyteller in the novel of *Forrest Gump* by Winston Groom, which was first published in 1994, by showing examples characteristic of the American Southern dialect.

A certain native speaker of English refers to the English of Forrest in the following way.

"His speech peculiarities aren't a Southern dialect, but are rather similar to the way small children don't speak perfectly. Remember, Forrest Gump was supposed to be mentally retarded."

This comment rejects the features of the American Southern dialect completely, and this attitude may have resulted from focusing too much attention on Forrest's mental retardation. There are, however, lots of examples which Fujii (1984) and Toyonaga (1998) describe as typical grammatical features of the American Southern dialect, such as "multiple negation," "double subject," "reflexive dative," etc. These examples will be shown, and be compared to those in *Tobacco Road* by Erskine Caldwell, which was first published in 1932. In the course of this, whether the difference in the publication date affects the grammatical features of the two novels will also be considered.

#### 1. はじめに

1960年代に時代設定をされた、1994年出版のWinston Groomの小説、*Forrest Gump*中のForrestの英語（以後、FG）について、アメリカ南部方言ではないとするネイティブスピーカーが存在する。例えば、文教大学元教授長野格氏の友人であるMr. EricはFGについて次のような評価を下した。

His speech peculiarities aren't a Southern dialect, but rather similar to the way small children don't speak perfectly. Remember, Forrest Gump was supposed to be mentally retarded.

しかし、FGには、アメリカ南部方言と思われるものが多く見られる。Forrestが“mentally retarded”「知能が遅れている」とされていることに注目する余り、Forrestの英語のアメリカ南部方言性をまったく否定してしまうネイティブスピーカーがかなり存在するであろうと、Mr. Ericの評

価から推測される。

本稿はFGに見られる、藤井健三『アメリカ南部方言の語法』（以後、藤井(1984)）や豊永彰『アメリカの文学方言』（以後、豊永(1998)）でアメリカ南部方言の典型とされている例を挙げ、その南部方言性を文法面から実証したい。また、1932年出版のErskine Caldwellの小説、Tobacco Roadの会話部分（以後、TR）に見られるアメリカ南部方言との比較を試み、出版年代による文法面における差異の存在の有無を考察したい。

さらに、特に、最も南部方言に特徴的な重否定や全人称用法については、FG、TRに存在する用例の膨大さから鑑み、その出現環境・形態も明示したい。

## 2. 文法面の形態

豊永(1998)もその構成法については、藤井(1984)が大いに参考になったと高く評価している。本稿も豊永に習い、文法面の形態について、その分類の概要は、藤井(1984, pp.6-21)を参考にする。ここで注意すべきは、豊永(1998)の「はじめ」にもあるように。藤井は、アメリカ南部方言を広義に解釈しており、いわゆる口語表現まで含めていることである。藤井は、アメリカ南部の作家が使用している、つまり、登場人物が、アメリカ南部方言とともに使用している英語を、標準英語口語（以後、「口語」）であるものまでを含め、すべてアメリカ南部方言としていることである。

まず、藤井の分類の概要について、本稿執筆者の補足も適宜加え概説する。豊永も述べているが、口語であるものがいくつか存在する。

### 2.1 拡大語法

#### 2.1.1 動詞の活用<sup>(1)</sup>

動詞の活用について、藤井は運用の自由簡便性を挙げている。

take: take tuck tuck / take taken taken / take took took / take taked taked / take taken taken / take taken taken

過去と過去分詞に同形を使用

know knowed knowed / see seed seed / throw throwed throwed / grow grewed grewed

bear borned borned / give given given / beat beaten beaten

give give give / beat beat beat

break broke broke

藤井は、動詞の過去と過去分詞が同形であることを、アメリカ南部方言の特徴的なものとしているようである。

#### 一般動詞（現在時制）

-sは守っても守らなくてもよい。

He seem like he dead... - Harris

これは、原型の全人称用法と言えるであろう。

すべての人称に-sをつける用法もある。

You pays your money... - Twain

I wants to fight the Yankees. – Mitchell

これは-sの全人称用法と言える。

双方ともFG、TRにはその用例が多数存在した。

### 2.1.2 be(助)動詞 have(助)動詞の全人称用法

be(助)動詞、have(助)動詞に関連する全人称用法について記述している。全人称用法は方言文法の大きな特徴の一つである。

ain't

'm not aren't isn't / haven't hasn't / don't doesn't の代わりになる。

didn't weren'tの代わりにも稀になるという。

Maybe he ain't(=doesn't) know. – Faulkner

I told you long time ago I ain't(=didn't) blame you. – Faulkner

ain'tに対応する過去形の全人称用法は、warn't(wa'n)。

しかし、warn't、wa'n'はFG、TR共に、用例が存在しなかった。

is was

I's well off whar' I is, I tell you. – Harris

I reckon we is gittin nigh home. – Faulkner

I wish we was both dead. – Faulkner

FG、TR共に、多数用例が存在した。

不変化(原型) be

全人称・数に適用されるだけでなく、現在・過去・未来すべての時制に適用される。

Here he be(=is). – Price

That be(=was) thirteen years ago. – Capote

She be(=will be) here by night. – Faulkner

FG、TR共に、用例が存在した。

do(n't) ,does(n't)

do(n't)で統一される傾向のほうが強い。

That don't(=doesn't) make no difference. – Caldwell

Where do(=does) she live?-Rawlings

Does(=Do) you want to drive me mad! – Simms

口語でかなり使用されている。FG、TR共に、多数用例が存在した。

(助)動詞has

I has(=have) a milch cow named Truth. – MacKaye

What has(=have) you lived on? – Twain

We has(=have) got to haul a load of wood to Augusta today. – Caldwell

FG、TR共に、多数用例が存在した。

助動詞have hasに代わるisの全人称用法

Is(=Have) you got money? – Caldwell

I's(=I've) changed my mind. – MacKaye

FG、TR共に、用例が存在した。

### 2.1.3 完了の助動詞done

完了を表す助動詞のうち、もっとも南部方言に特徴的な助動詞。

He done gone. / He done went. / He done go. 意味は同じ。

doneの前に、have, has, (否定の場合はain't) が使用されることもあるが、意味は同じ。

Your good man has done come at last. – Caldwell

doneはまた、形容詞、副詞の前に使用されることもあるので、一般的には助動詞ではなく、完了と強調を表す副詞と考えられている。

I'm done back again. – Feagin

FG、TR共に、用例が存在した。

### 2.1.4 形容詞

#### 比較変化

比較級、最上級をつくるのに、すべての形容詞に-er,-estを自由につけられる。

faithfuller / troublesomer / gooder(=better) / bestest(=best)

本来活用変化しない語にも-er,-estを適用する強調語法がある。

The best-naturedest fool / the bawlinest (ひどくうさく吠える) things

FG、TR共に、用例は存在しなかった。

**単純形副詞 (flat adverb)**：形容詞を副詞にする場合、-lyをつけず、そのままの形で副詞として使用。

Whew, I'm pure tired. – Faulkner / We done it elegant, too. – Twain /

You better come quick, I reckon. – Faulkner

FG、TR共に、用例が存在した。

Lexisでは、quickに副詞の項が存在するなど、かなり口語化している。

#### 形容詞likeの接続詞用法

It was like he knowed. – Faulkner / Looks like she is dead. – Caldwell

FG、TR共に、用例が存在した。

Lexisでは、接続詞の項が存在するなど、口語化している。

### 2.1.5 代名詞

#### 再帰代名詞

himself, themselvesの代わりに、hissself, theirselvesという形をよく使う。

myself, yourself, ourselvesなど「属格+self」を拡大適用したように見える。

逆に、meselfのように、himself, themselvesの「対格+self」を拡大適用したように見える例も存在する。

#### 独立所有格

mineの拡大適用に見える例が存在する。

ourn(=ours) / yourn(=yours) / hisn(=his) / hern(=hers) / theirn(=theirs)

独立所有格については、*FG*、*TR*共に、用例は存在しなかった。

### 2.1.6 不定冠詞

母音の前でもすべて*a*を使用。

*a ear* (=an ear) / *a hour* (=an hour)

*FG*では、次の例などが存在した。

*I guess I stood there a hour or so....* – *FG96*

*A elevator take us to capsule we is to be in....* – *FG119*

しかし、*TR*では、標準英語と同じで、母音の前では*an*が使用されていた。

## 2.2 簡略語法：省略語法

### 2.2.1 主語省略

代名詞主語はかなり頻繁に省略される。

*(We) Can't serve no beer to minors.* – *Capote*

*(It) Looks like to me he ought to know that himself.* – *Caldwell*

*(I) Reckon there's no danger.* – *Rawlings*

*FG*、*TR*共に、用例が多数存在した。

自明な場合、口語でも省略する。

### 2.2.2 主格関係代名詞の省略

*There ain't any doctor (who) works here.* – *Faulkner*

*...do you know a man (who) came to marry me....* – *Capote*

*FG*、*TR*共に、用例が存在した。

特に、*There is*構文中では、口語でも省略する。

### 2.2.3 be動詞の省略

*Where (are) you from?* – *Faulkner*

*She (is) going to have a baby.* – *Welty*

*We (are) eatin' venison today.* – *Rawlings*

*FG*、*TR*共に、用例が多数存在した。

音声面との関連もあろうが、口語でも省略する。

### 2.2.4 助動詞doの省略

*What (do) you want with me?* – *Caldwell*

*How (do) you know it hasn't changed some?* – *O'Connor*

*FG*、*TR*共に、用例が多数存在した。

音声面との関連もあろうが、口語でも省略することが多い。

### 2.2.5 助動詞haveの省略

*Where (have) you been lately?* – *S. Mitchell*

*I (have) done an evil deed this day.* – *Caldwell*

*FG*、*TR*共に、かなりの用例が存在した。

完了不定詞でも*have*が省略されて、「*to+過去分詞*」が使用され、更に過去形と過去分詞形を厳

密に区別しないことから「to+過去形」と見られる語法も生じる。

You ought to done it at first. – Faulkner

You ought to took time. – Faulkner

I like to did it. – Gregg

FGには存在せず。TRには次の1例が存在した。

I ought to had better sense than to let you get near it. – TR162

### 2.2.6 前置詞

out ofの簡略用法としてoutがout ofと共に広く使用される。intoの意味のinはoutに対応する簡略用法。

The grandmother...would not let the children throw the box and the paper napkins out the window. – Welty

Go look in the window. – Capote

LEXISでは、双方共、前置詞の項に記述がある。

### 2.2.7 話法

直接話法の語順のまま、間接話法の中に名詞節としてはめ込む。

She ast you does your mother work! – O'Connor

I'd say How old am I? – Faulkner

増田（1997, p.192）では、黒人英語に特徴的なものとして次ぎの例を挙げている。

I asked him what did he do.

間接命令文に「say+ (for+対格) +to不定詞」、「say+toなし不定詞」を使用。

Father says for you to go home.--Faulkner

Dru says to come on out. – Faulkner

Lexisにも記述があり、口語である。FG、TR共に、用例が存在した。

### 2.2.8 条件文

if, unless などを使わずに、疑問文と同じ倒置語順でつくる。

What'll you give us, do we go tote him on? (奴を運びだしたら)

FGに、次の1例が存在した。

Had I knowed(=known) what was gonna(=going to) happen nex(=next), I would of(=have) fucked them up. – FG115

TRに、用例は存在しなかった。

## 2.3 重複語法

単純化ないし簡略化の語法とは逆。

### 2.3.1 重否定 (multiple negation)

南部方言ではとくに不要なneverが頻繁に使用される。

Only don't never ax(=ask) me nothin about Mister Samson. – Capote

He ain't never told me to get off and go up there. – Caldwell

Ain't nobody going to steal nothing from you in my house. – Faulkner

FG、TR共に、用例が多数存在した。

藤井（1984, p.236）で、重否定を強意法に分類しているが、これには疑問を感じる。もしそうであるなら、重否定でない、例えば、否定語+anyのような例がかなり存在してもよいはずである。

今回の調査では、FGでは発見できず、TRでも次の1例しか発見できなかった。

I ain't got anything wrong with me that I know about. – TR97

### 2.3.2 二重主語 (double subject)

名詞主語の後に不要な代名詞主語を添える。

His mother, she works at the factory. – O'Connor

Miss Watson, she kept pecking at me.... – Twain

FG、TR共に、用例が存在した。

### 2.3.3 二重助動詞 (double modal)

You may can scare an old woman.... – Faulkner

I might not could resist it.... – Feagin

...you hadn't ought to let him do that. – Porter

藤井 (1984, p.124) で、二重助動詞の用法は、イギリス英語には古くから存在するが、今日ではアメリカ南部のほかにも Jamaican Creole や黒人英語にも存在することが知られている、としている。

伊藤 (2007) では、二重助動詞の使用頻度の調査が行われている。

伊藤はミシシッピ州の37名の白人大学生を対象に、以下の例により、話し言葉における使用頻度の調査を行っている。

You might can work tomorrow. (=might be able to work)

You might should work tomorrow. (=might have to work)

You might ought to work tomorrow. (=Maybe you ought to work)

You might could go to school tomorrow. (=might be able to go)

You might had better see your professor tomorrow. (=You'd better see)

You used to could live comfortably. (=used to be able to live)

You may can hand in the paper tomorrow. (=may be able to)

これらの二重助動詞を話し言葉で頻繁に使用している大学生が少なくとも一割をこえ、might can、might should、might ought toに関しては、ほぼ4人に1人が多用しているという回答を伊藤は得ている。これらの表現は、「ミシシッピ州の白人大学生の間では、ある程度市民権を得ている表現」と伊藤は結論づけている。

しかし、FG、TR共に、これらの二重助動詞の例は存在しなかった。FGにその例が存在しなかったことは意外である。隣接する州ならば、ある程度の流入が予測されるからである。Forrestは言語習得期を、ミシシッピ州に隣接するアラバマ州で過ごしているため、多少の使用が予測されるからである。

藤井は、伊藤の挙げた例も含め、次の例を挙げている。

may can / might can / might could / might can't / might would / might will /  
might don't / useta could / useta would / useta hadda / useta was / must can't / must don't / must didn't /

FG、TR共に、これら二重助動詞の用例は存在しなかった。FGはアラバマ州、TRはアラバマ州に隣接するジョージア州の南部方言から構成されていると言えよう。今後、他の作品、また同じ州の、たとえば、Crawford Feaginなど他の作家の作品も検討する必要があるだろうが、藤井が概論的

に挙げた文法項目の中にも、使用頻度が州によって異なるものが存在する、また、全く使用されない項目も存在し得ることが予測される。

藤井は、「二重助動詞の用法は、イギリス英語には古くからあるのだが、、、」としているので、*The British National Corpus (BNC)*での検索を試みた。<sup>(4)</sup>その結果、以下の9例が存在した。*BNC*が基本的には標準英語からなるコーパスであるという理由もあろうが、その規模から考えると、用例数は極めて少ないと言える。

(might can) America's military might can be used.... – Today

(might should) ...that might should be right.... – Accountancy

(might could) And you might could try.... – about 8483 words speech recorded....

(used to could) ...that used to could...make.... – about 7308 words speech recorded....

(may can) ...Sun Microsystems Inc may can (stick) the ISDN feature.... – Unigram x.

(might would) Any that might would be warned.... – The Economist

military might would bring.... – The Hitler Myth

(might will) Teheran might will...support.... – Marxism Today

He might will ...be too green..... – A Bloody Field by Shrewsbury

#### 2.3.4 二重比較級・二重最上級 (double comparative・double superlative)

余分な-er, -estやmore, mostを加える。

the bestest—Capote / the most ixcellentest way – Simms / worser – Gregg /

more prettier-MacDavid / more pleasanter – Twain

*FG*、*TR*共に、これらの用例は存在しなかった。州は異なるが、2作品の共通性を見出せる。

#### 2.3.5 二重複数形 (double plural)

母音変化によって複数形にした名詞に更に複数語尾-sを加える。

womens – Mitchell / gentlemens – Mitchell / mens – American Dialect Dictionary /

chidrens – McCullers / feets – O'Connor / oxens – Davis

*FG*、*TR*共に、これらの用例は存在しなかった。

#### 2.3.6 複合指示詞 (double demonstrative)

指示形容詞・指示代名詞のthis, that, these, thoseに不要なhere, thereを加えたもの。

this here car – O'Connor / dat air chile(=that there child) / Look at this-here. – Welty

...this here won't hurt you. – Rawlings

*FG*には用例が存在しなかった。*TR*には4例存在した。

#### 2.3.7 再帰与格 (reflexive dative)

標準英語なら不要であるが、もし使用するなら再帰代名詞を使用すべきところに、与格の代名詞を使用。

Now, we'll jest ketch(=just catch) us a bear cub. – Rawlings

Where would you find you an innocent woman today? – O'Connor

*FG*、*TR*共に、用例がかなり存在した。



### 2.3.8 不要な前置詞・副詞・その他

here, there, whereと共に不要な前置詞in, atを加える。

I was in here earlier. – Capote / Where am I at? – Caldwell /

You'll find chamber pot in there. – Capote

come in , get to , go back to などに不要なonを加える。

You come on in. – Faulkner / Get on to bed. – Faulkner /

You go on back to Lafe. – Faulkner

同意語・類似語を加える。

You make a heap of a lot of money at the chute. – Caldwell

She got off out of school at two thirty. – Feagin

## 3. FGとTRの英語

藤井、豊永と若干異なった、あるいは記述されていない形式で、特定の典型的な文法項目に着目して、両小説の異同を考察する。

### 3.1 FGの英語

*Forrest Gump*は、1960年代に時代設定がされている。アメリカ南部アラバマ州を故郷とする、知能は低いと体格に恵まれたForrestが、ベトナム戦争、中国、宇宙空間、原生林、ハリウッドなどを舞台に、「正しいと思う行動をする」という信念と知能が低いと故の純粋さから、誰からも愛され、人生において次々と成功を収めていく様子が痛快に描かれている。

小川は『フォレスト・ガンプ』の『訳者あとがき』で、本小説は主人公Forrestがとつとつと語るスタイルからなる、としている。一人称小説と言えよう。ほぼ全編が話し言葉と言える。本小説でも記述されているが、Forrestの知能指数は70位である。

My IQ is nearly near 70, which qualifies me, so they say. – FG9

\* タイトル(略称)の後の数字は、テキストの頁を表す。

小川によれば、IQ70は五歳から十歳程度の知能のようである。

一般に、知能の低い成人男性の特性は、母親に対する愛情・女性に対して関心を示すこと(通常ひとりの女性であり、通常、男性には興味を示さない。②) 食欲など生理的欲求に関心を示すこと、通常過去のことを述べるのは無理なようである。③)

最後の、「通常過去のことを述べるのが無理」なことを著者は理解した上で、小説の技法上、過去のことを現在時制、あるいは原型、また同時に過去時制で語らせるようにし、Forrestの知能が低いことを読者に印象づけている。これら「時」の表し方は、すべて南部方言で認められている。同一文中で、これらが混在すると、Forrestの英語が、mentally retardedな人物の英語と解され、読者の中には、南部方言性を全く否定する者が現れる可能性が生じるであろう。

### 3.2 TRの英語

*Tobacco Road*は、1920年代末頃から1930年代初め頃に時代設定がされていると思われる。アメリカ南部ジョージア州の農村を背景に、極貧の農民を登場人物とし、食欲と性欲をむきだしにした人

間のあさましさを描いた小説である。

*Tobacco Road*は、*Forrest Gump*と違い、オーソドックスな三人称小説である。会話部分が多いが、地の文も存在するため、一人称小説のFGと比較して、話し言葉の量はかなり少ないと言える。しかし、新車のセールスマンの数少ない標準英語の会話部分を除く、登場人物の会話部分すべてが、アメリカ南部方言である。

著者Caldwell自身による地の文においてもかなりの口語英語が存在する。

She hobbled across the road and over the old cotton field that had not been planted and cultivated in six or seven years. – TR13 ※以後、アンダーラインは本稿執筆者による。

地の分では通常、期間を表す前置詞は、forを使用する。

Things had been going along in that easy way.... – TR60

地の文では通常、suchを使用する。

She had at last come closer so she could hear what was being said. – TR171

地の文では通常、「～できるように」という目的用法の構造では、so thatとし、thatを省略しないと思われる。

Even if she did not leave the room when he entered the house, she would not look at him nor have anything to say. – TR38

通常、orを使用する。地の文においても、南部方言の特徴的なものの一つである「重否定」を使用している。

### 3.3 FGとTRの用例

FGの用例はForrestのみの言葉、TRの用例は、登場人物の言葉である。

テキストは、*Forrest Gump* (FG) については、A Black Swan Bookの1994年版、*Tobacco Road* (TR) についてはBrown Thrasher Booksの1995年版を使用した。タイトル(略称)の後ろの数字は頁。

#### 3.3.1 重否定

重複語法の一つ。いくつ否定要素があっても否定の意味をもつ。

重否定は最もアメリカ南部方言を特徴付ける文法項目の一つである。但し、今日、口語にもある程度流入しているように思われる。

FG、TR共に、用例が多数存在した。藤井、豊永共に記述はないが、本稿執筆者は、目下のところ、重否定の出現環境・形態を次のように分類する。

※適宜、用例には日本語訳を加える。(= )は本稿執筆者による。

##### 3.3.1.1 FGの用例

後ろの否定語が副詞成分

1. ...it ain't no easy thing with ants in your pants. – FG180 (パンツのなかに蟻がはいっていたら、それは楽なことではない)
2. Jenny ain' never been nicer.... – FG26 (ジェニーがこんなに優しいことはなかった)
3. Coach was not too happy with my tacklin neither.... – FG17
4. That didn't surprise me none.... – FG211

5. (It) Don't hardly look like a war going on at all. – FG55 (ほとんど戦争をやっているように見えない)  
 6. Awe, Jenny, don't do that. It ain't nothin(=nothing). – FG102

後ろの否定語が(代)名詞

7. Rudolph don't say nothin.... – FG98 (ルドルフは何も言わない。)  
 8. ...I don't want to make nobody mad. – FG195 (誰も怒らせたくない)  
 9. He...didn't have nowhere to go either. – FG36

後ろの否定語が形容詞

10. I ...an(=and) not no idiot... – FG9 (馬鹿ではない)  
 11. ...there ain't no sidewalks... – FG158  
 12. ...cause(=because)I couldn't see no real reason for wearing it. – FG14

後ろの否定語が慣用句の一部

13. ...I ain't nothin but a bumblin idiot anyhow. – FG110 (いづれにしても不器用な馬鹿にすぎない)  
 14. ...we ain' no more than ten feet down the path... – FG143 (10フィートしか行っていない)  
 15. ...I ain't got no more bright ideas... – FG205  
 16. ...we don't see hide nor hair of him. – FG214  
 17. ...I didn't want to spend none of my money.... – FG185  
 18. There wadn't(=wasn't) no reason to be in Indianapolis no longer. – FG184  
 19. Ain't nothin much going on that we can see.... – FG55  
 20. Jenny...wouldn't speak to me none at all. – FG109  
 21. ...the other feller(=fellow) ain't none too happy but he paid me five dollars.... – FG161  
 22. ...there wadn't(=wasn't) no convincin him.... – FG185 (奴を納得させることはできない)  
 23. ...they(=there) didn't seem to be nobody much smarter than I was – FG50

後ろの否定語が不定詞構造中にあるなど距離が遠いもの

24. Mister Wilkins have ordered us not to never go up to any Chinamen.... – FG92 (ウィルキンス氏は決して中国人に近づかないよう我々に命じていた)  
 25. ...I tole(=told) Sue to wait in the yard so as not to startle them(=those) sisters none – FG210 (修道尼たちを決して驚かせないように、庭で待っているようにスーに言った)  
 26. It ain't right for a corporate executive like me to be livin(=living) in no shack. – FG223  
 27. ...he don't look like he afraid of nothin. – FG235

三重否定

28. He ain't never met Raquel Welch before, neither... – FG199 (彼も以前ラクウエル・ウェルチに会ったことがなかった)  
 29. ...I don't never want to be no cotton farmer. – FG136 (綿作りなんて決してやりたくない)  
 30. ...it didn't do nothin to all them(=those) guys settin(=sitting) out there in the mess hall neither. – FG53  
 31. I ain't never seen nobody dead.... – FG56

### 3.3.1.2 TRの用例

後ろの否定語が副詞成分

1. ...I ain't no different in other ways from the rest of the women-folks. – TR127 (他の面では他の女性とかわらない)

2. She ain't never slept in the bed. – TR9
3. And no amount of praying can change the law, neither. – TR95 (いくらお祈りをされてもまた法律を曲げられない)
4. He don't appear to be aiming to help you none. – TR156 (ぜんぜんあなたを助けようという様子がない)
5. I never heard of a durn gal sleeping on a pallet on the floor..., nohow. – TR18 (床の上のわら布団に寝るクソ女なんて全然聞いたことがない)
6. I ain't none too pleased to have you around, noway. – TR162
7. That ain't going to get you nowhere. – TR41  
後ろの否定語が(代)名詞
8. She ain't nothing like that. She's a woman preacher. – TR134 (そんな人ではない。女牧師だ)
9. I don't know nothing else to do.... – TR17 (他にすることなんてわからない)
10. I ain't got none. – TR18  
後ろの否定語が形容詞
11. That ain't no way to treat your old Pa.... – TR12 (年取った父親をそんなふうにあつかうな)
12. Well, it don't make no special difference now. – TR182
13. Ain't no use in talking no more, Jeeter. – TR116 (ジーター、これ以上話しても無駄だ)  
後ろの否定語が慣用句の一部
14. She didn't have nothing but some old dresses of her own. – TR85 (いくつかの自分お手製のドレスしか持っていない)
15. It looks like it ain't going to run no more. – TR138 (そいつ(=自動車)はもう動かないようだ)
16. And we can't take no more chances. – TR116
17. These old inner-tubes and tires ain't much good no longer. – TR28
18. ...if I don't get none of the benefits. – TR8
19. He don't take none too good care of me and mine. – TR96
20. ...there ain't no telling what she might have done. – TR135 (彼女が何をするかもしれなかったのかわからない)  
後ろの否定語が不定詞構造中にあるなど距離が遠いもの
21. Captain John told the merchants...not to let me have no more snuff.... – TR16 (ジョン旦那は、商人たちにもう私に嗅ぎタバコを渡さないように言った)
22. Why didn't you want me to have none? – TR41
23. ...I don't know where to get nothing. – TR16
24. ...I ain't never heard of nobody preaching about men. – TR161
25. ...there wasn't no other girl in the whole country who was nowhere as pretty as she was.... – TR169 (国中どこ捜したって彼女ほど綺麗な女性は他にいなかった)  
三重否定・四重否定
26. It seems like I can't do nothing no more like I want to. – TR127 (もうやりたいように出来なくなったようだ)
27. I ain't never seen nobody with all the top of her nose gone away .... – TR84
28. Tom ain't never said nothing like that to me before. – TR157
29. He said there wasn't no sense in trying to run a farm no more.... – TR24

30. You ain't fit for nothing else no more. – TR15  
 31. ...won't nobody do that for me , neither. – TR16  
 32. I don't see no sitting place for nobody much. – TR134  
 33. She wouldn't never getting down on no durn pallet on the floor, neither. – TR170 (彼女なら床の上のクソわら布団の上で寝るなんてこともしないだろう)

### 3.3.2 全人称用法

拡大語法のひとつ。

重否定と共に、最もアメリカ南部方言を特徴付ける文法項目の一つである。特に、すべての人称で、一般動詞の語尾に-sを使用したり、(助)動詞にis[was]やhasを使用したりするものが典型的である。

FG、TR共に、用例が多数存在した。

#### 3.3.2.1 FGの用例

一般動詞の語尾-s

32. ... but I says, 'I ain't no Dumbo,'... – FG17 (でも「ぼくはとんまではない。」と言う)  
 33. ...they says it is not nearly as bad as what has gone thru(=through) this past year. – FG54 (それ(ベトナム行き)はこの1年間経験してきたことよりひどいものではない、と彼らは言っている。)

一般動詞の語尾に-sをつけない

34. Mad Tom say he is jus(=just)... – FG105  
 35. Then everythin get scorchin hot... – FG126 (それからすべてがじりじり熱くなる)  
 36. ...he get up an say, 'Hello – me good boy. Who you?' – FG130 (起き上がり、「よう、兄ちゃん、お前は誰だ。」と言う)  
 37. She set me down at a table an start showin me cards with ink blots .... – FG114  
 (助)動詞is[was]  
 38. I is tole(=told) to set(=sit) in a chair... – FG193  
 39. ...we is in a big auditorium up on the stage. – FG83  
 40. People is jumpin around an choakin an coughin... – FG106 (人々は飛び回ったり、ゲホゲホむせ返ったりしている)  
 41. Things is very primitive (=primitive)in the jungle... – FG64 (ジャングルの中では何もかもが原始的だ)  
 42. He have(=has) his own philosophy bout(=about) why we was there... – FG69  
 43. They(=There) was all sorts of sounds(=sounds) comin from in there... – FG137 (ここからはありとあらゆる音が聞こえてきていた)  
 44. ...we was doin our act at the Hodaddy Club... – FG103  
 45. ...I seen some other guys in Army Uniform an they was bunched together...-FG112(他に軍服を着ている奴もおり、ひと塊になっていた)  
 46. When we is finally finished... – FG103  
 (助)動詞be  
 47. She be the only one moanin an bitchin... – FG119 (彼女だけが不平たらたらだ)

48. ...after that I be in the doghouse again.... – FG82 (その後また犬小屋のようなところに逆戻りだった)  
49. He be waitin for a(=an) answer.... – FG63  
50. ...we be escorted into the jungle.... – FG131

(助)動詞has

51. One day they...tell me what they has in mind. – FG116 (ある日考えを聞かせてくれた)  
52. I say I has got to see her.... – FG110  
53. Wile(=while) we has been up in space for nearly two days.... – FG124  
54. We has formed perimeter of sorts.... – FG66 (陣地のようなものをはった)

3.3.2.2 TRの用例

一般動詞の語尾-s

34. If you ain't going to let me ride in the new automobile when I wants to.... – TR163 (俺が乗りたいときに新車に乗せてくれるつもりがないなら)  
35. We women knows what we ought to do.... – TR49

(助)動詞is/was

36. But you is a religious man, Jeeter.... – TR108  
37. They is rich, but that don't make no difference to me. – TR143 (奴らはみな金持ちだが、そんなこと俺にはどうだっていい)  
38. We is married now, Dude. – TR104  
39. Here I is working all the year myself.... – TR115  
40. Is you got two dollars? – TR83  
41. We is finished being married. – TR104

(助)動詞be

42. I expect they be almost as hungry as I was. – TR42

(助)動詞has

43. When I has a sharp pain in the belly.... – TR24  
44. Him and me has always been fair and square with each other. – TR17 (神様と俺は常に互いにやましいところがなかった)  
45. All of us has just got to wait until the rich give up the money.... – TR116

3.3.3 その他

藤井が文法の概要で挙げたもののうち、拡大語法の完了のdone、簡略語法の主格関係代名詞省略、また、簡略語法ではないが、主格関係代名詞whoに代わるwhat、重複語法の二重主語、複合指示詞、再帰与格について、FGとTRの用例の比較を試みる。口語化しているものは、基本的には対象外とした。他に南部方言に特徴的なものも存在するが、まず、本稿では以上の文法項目に限定した。

3.3.3.1 FGの用例

完了の助動詞done

55. ...I reckon I done live a pretty interestin life, so to speak. – FG9 (ある意味で、とっても面白い人生を送ってきたと思う)

56. ...Jenny done gone to Chicago with this girl.... – FG16

57. Sue had done gone an.... – FG12

藤井も記述しているが、57のようにhadが使用されている例が存在すると、doneを副詞成分的に考えることが可能である。

#### 主格関係代名詞の省略

58. They(=there) was a lot of folks (who) come out.... – FG158

59. ...they(=there) was something in his eyes that kinda shined an glowed in a weird way (which) reminded me of something. – FG234 (彼の目には、なんだか妙に輝くものがあり、それが僕に何かを思い出させた)

there is構文中では口語でも頻繁に見られる。

#### 主格関係代名詞whoに代わるwhat

60. The other people that play on the ping-pong team are real nice fellers what come from ever(=every) walk of life – FG87 (卓球チームの人々は本当に親切で、ありとあらゆる職業の人々だ。)

61. They(=There) is a big ole(=old) Chinaman what speak English.... – FG89

#### 二重主語

62. Dan, he come to me an say.... – FG184

63. ...Honest Ivan, he grunt a couple of times.... – FG205

64. ...Sue, he done started turnin cartwheels... – FG234 (スーの奴はカートを回し始めた)

#### 複合指示詞

FGには用例が存在しなかった。

#### 再帰与格

65. I ...bought me some srimp..... – FG71

66. We dug us foxholes.... – FG57 (我々は塹壕を掘った)

67. ...I have got to get myself some new clothes.... – FG99

67のmyselfは不要な再帰代名詞である。

### 3.3.3.2 TRの用例

#### 完了の助動詞done

46. I done started doing it. – TR163

#### 主格関係代名詞の省略

47. There was a man and his wife moved here from.... – TR54

there is構文中では口語でも頻繁に見られる。

#### 主格関係代名詞whoに代わるwhat

48. I want a woman what ain't so -. – TR9

49. You ain't the only one what likes turnips. – TR41 (お前だけがカブラを好きな人間ではない)

#### 二重主語

50. Dude, he's as big a sinner as the rest of us Lesters. – TR50 (ジュードの奴はレスター家の他の連中と同じくらい罪深い)

51. Jeeter, he would lots rather grow a big crop of cotton than go to heaven – TR182

#### 複合指示詞

52. What you got in that there croker sack, Lov? – TR8 (そのズタ袋に何を入れているんだ)

53. Quit chunking that there ball against the old house.... – TR26

this hereなどの用例は存在しなかった。

#### 再帰与格

54. I could have married me a woman what wants to be married to me. – TR4 (俺と結婚したがっている女性と結婚することが出来たんだ)

55. I'm going to buy me a new automobile! – TR82

56. You ought to go out and find yourself a man to right away. – TR111

56のyourselfは不要な再帰代名詞である。

## 4. おわりに

FGにおいて、pp. 13 – のnut schoolやpp.105 – のMad Tom、pp.130 – のBig Samなど人称代名詞に置き換えずに、気に入った固有名詞を連続させること、また、重要な場面で、排泄語のpeeをForrestに頻繁に使用させることなどが、かなり多くのネイティブスピーカーにForrestの知能の低さを印象付けさせるように思われる。

68. 'That is some costume you has got on there,' somebody says, an somebody else say, 'Far out!'.... – FG96

69. So he jus nods an gives me a little salute with his han(=hand) an I went on back to the bus station. – FG186

また、同一文中で、68のように同じ時で-sと原型を混在させる例や、69のように同じ過去の事象を過去時制と現在時制で語らせる例は、TRには存在しない。それがアメリカ南部方言の可能性を駆使しながら、同時にForrestをidiotに見せる作家の技法であろう。しかしこのことはネイティブスピーカーにForrestの英語のアメリカ南部方言性を否定させることになるように思われる。

しかし、藤井(1984, pp.6-21)のアメリカ南部方言の文法の概要に該当する例やTRと共通する例も多数存在する。重否定については、FGはTRと用例の出現環境や形態がほぼ共通している。また全人称用法についても、一般動詞の語尾に-sをつけない例がTRに存在しなかったことを除いて、FGはTRと用例の形態が共通している。やはりアメリカ南部方言に特徴的な、その他についても、複合指示詞の例がFGに存在しなかったことを除いて、FGはTRと用例の文法項目が共通している。

文法面から見た限り、FGの南部方言性は、否定できないと思われる。<sup>5)</sup>そして、TRとの出版年代や時代設定の差異は、文法面にはほとんど影響を及ぼしていないと思われる。

本稿は、2009年9月20日に日本実用英語学会第34回年次大会で口頭発表した、「Forrest Gumpに見られるアメリカ南部方言」に加筆・修正を加え、まとめたものである。

## 註

- (1) FGでは、過去時制か、現在時制の「劇的現在」用法、もしくは原型か、判断に苦しむ場合がある。
- (2) 通常、知能の低い男性にはあまり無いことであるが、Dan中尉などとの親交については、小説のテーマを広げる目的で、著者が技法上加えたと思われる。
- (3) 文教大学情報学部非常勤講師の高橋則夫氏による。



(4) 用例の検索はShogakukan Corpus Network (SCN) によった。(2009-5参照。)

(5) ある基礎語彙の使用頻度に着目しても、このことが言えると思う。

服部(1968)では、「(サイズが)大きい・小さい」について、6歳と4歳の子供の例を挙げ、小さい子供はbig, littleをもっぱら使用し、少し成長するとlarge, smallを使用するようになると述べている。そして、服部はbig, littleに'childish or juvenile'という意義特徴を、large, smallにはそれと対立する'dignified or intellectual'という意義特徴を与えている。

Forrestの英語(FG)は、関係詞節などを含んだ複文や完了相を普通に使用しているなど、文法面では完成していると言える。

福島(2008, pp.31-33)では、big, littleとlarge, smallの使用頻度について、主に黒人英語からなる小説*The Color Purple*中のCelieの言葉(CP)との比較を行った。FGではbigとlittleは181例と172例存在していたのに対し、largeとsmallは2例と1例しか存在しなかった。CPにおいてもそれぞれの使用頻度はFGとほとんど変わらない。bigとlittleは95例と170例が存在していたのに対し、largeとsmallは0例と2例、とその使用頻度はbig, littleと比較して極めて低いと言える。これら形容詞の意味を「(サイズが)大きい・小さい」に限定しても、結果は同じである。これにより、福島(2008)はbigとlittleに'uneducated' 'unintelligent'という意義特徴(福島(2008)では「スピーチレベル」としている)を、largeとsmallに'educated'という意義特徴を提案した。この結果は同時にFGの英語の非標準性、アメリカ南部方言性を示すことになるとと思われる。

'uneducated' 'unintelligent'という意義特徴は、「非標準英語」と大いに関連する。

新車のセールスマンのごく少ない会話部分を除き、会話部分がすべてアメリカ南部方言からなるTRについては、bigとlittleは44例と65例存在していたのに対し、largeとsmallは会話部分に双方とも用例が存在しなかった。

FGにおけるlargeとsmallの使用頻度の低さは、アメリカ南部方言が豊富に盛り込まれたTRとも共通しており、これらの基礎語彙面の調査からもFGのアメリカ南部方言性が示されていると言えよう。

## 参考文献

- 福島一人(2008)「形容詞'big' 'little'と'large' 'small'の語法：*The Color Purple*と*Forrest Gump*の用例を中心に」『言語と文化』第20号 越谷：文教大学大学院言語文化研究科付属言語文化研究所
- 藤井健三(1984)『アメリカ南部方言の語法』東京：三修社
- グルーム, ウィンストン(1994)『フォレスト・ガンブ』小川敏子訳、東京：講談社
- 服部四郎(1968)『英語基礎語彙の研究』東京：三省堂
- 花本金吾他編(2003)『旺文社レクシス英和辞典』東京：旺文社 (LEXIS)
- 伊藤文彦(2007)「Double Modals」『Bulletin・英語表現研究』50号 東京：日本英語表現学会
- 増田秀夫他(1997)『現代英語学入門』東京：吾妻書房
- 豊永 彰(1998)『アメリカの文学方言』東京：金星堂